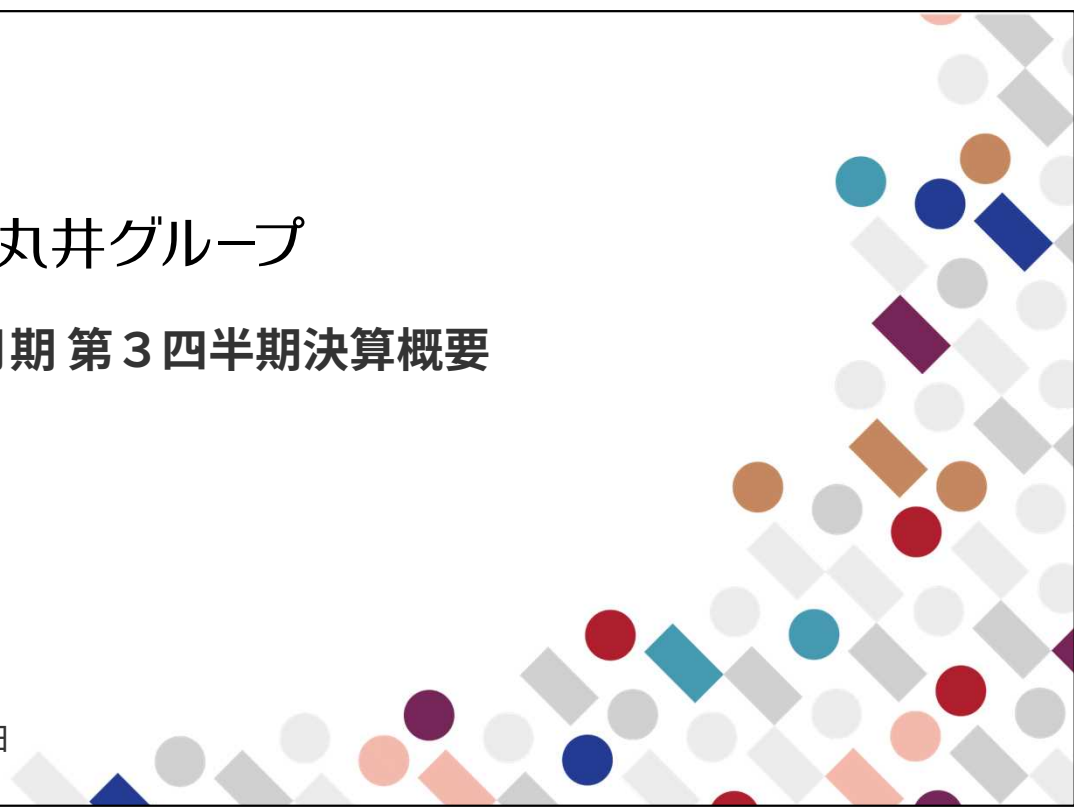


# 株式会社丸井グループ

## 2022年3月期 第3四半期決算概要



2022年2月3日



## 22年3月期 第3四半期決算概要および各事業の状況

- ・ 連結
- ・ フィンテック
- ・ 小売
- ・ 共創投資
- ・ B S / キャッシュフロー
- ・ E S G

**通期見通し**

- ① グループ総取扱高は2兆5,084億円（前年差+3,447億円）で過去最高を更新
- ② 当期利益は前年に比べて+24億円の162億円（17%増）  
主要KPIのEPSは13円増の78円
- ③ 連結営業利益は+11億円の297億円（4%増）  
前年の固定費特損振替や家賃減免等の特殊要因を除くと+26億円の増益
- ④ フィンテックセグメントの営業利益は+15億円の331億円  
小売セグメントの営業利益は△6億円の12億円

\* 今期より新収益認識基準を適用しております。

今期のダイジェストは4点ございます。

グループ総取扱高は2兆5,084億円で、第3四半期累計では過去最高を更新いたしました。

次に、当期利益ですが、前期差プラス24億円の162億円となりました。

主要KPIのEPSは13円増の78円となりました。

3点目、連結営業利益は297億円となりました。

前年の店舗休業期間中の固定費特損振替や家賃減免などの特殊要因を除くと、26億円の増益となっております。

4点目、セグメントの営業利益ですが、フィンテックは前期差15億円増の331億円と増益した一方で、小売は前期差マイナス6億円の、12億円となりました。

## 連結業績

### 総取扱高の伸長により売上収益が増加、3期ぶりの増収、2期ぶりの増益

		22年3月期 第3四半期累計		前年比 (%)	前々年比 (%)	前年差 (円)
EPS (円)		77.5		120	85	+12.8
	20年3月期 第3四半期累計	21年3月期 第3四半期累計	22年3月期 第3四半期累計	前年比	前々年比	前年差
	兆 億円	兆 億円	兆 億円	%	%	億円
グループ総取扱高	2,174.3	2,163.7	2,508.4	116	115	+3,447
売上収益	1,744	1,536	1,565	102	90	+29
売上総利益	1,480	1,340	1,369	102	92	+29
販管費	1,153	1,054	1,072	102	93	+18
営業利益	328	286	297	104	91	+11
経常利益	318	284	289	102	91	+5
当期利益	198	139	162	117	82	+24

グループ総取扱高は、小売セグメントにおいて店舗の営業日数が昨年より多かったことや、フィンテックセグメントのカードクレジットが好調だったことにより、前年比16%増、前々年比では15%増の2兆5,084億円となりました。

売上収益については、小売セグメントにおいて前年の家賃減免の反動のプラス影響があったこともあり、連結では2%増の1,565億円、3期ぶりの増収となりました。

売上総利益についても、売上収益の増加にともない、29億円増の1,369億円となりました。

販管費は、カードクレジットの拡大にともなうポイント費用や販売事務費等の変動費の増加もあり、18億円増の1,072億円となりました。

以上のことから、営業利益は11億円増の297億円となり、2期ぶりの増益となりました。

当期利益につきましては、特損振替額が大きく減少した影響もあり、17%増の162億円となり、2期ぶりに増益となりました。

## セグメント別の状況（売上収益・営業利益）

フィンテックは増収増益、小売は増収も前年の固定費特損振替影響により減益

	20年3月期 第3四半期累計	21年3月期 第3四半期累計	22年3月期 第3四半期累計	前年比	前々年比	前年差
	億円	億円	億円	%	%	億円
<b>売上収益</b>	<b>1,744</b>	<b>1,536</b>	<b>1,565</b>	<b>102</b>	<b>90</b>	<b>+29</b>
小売	760	536	564	105	74	+29
フィンテック	1,047	1,039	1,048	101	100	+9
全社・消去	△63	△39	△48	—	—	△9
<b>営業利益</b>	<b>328</b>	<b>286</b>	<b>297</b>	<b>104</b>	<b>91</b>	<b>+11</b>
小売	77	18	12	68	16	△6
フィンテック	302	316	331	105	109	+15
全社・消去	△51	△48	△46	—	—	+2

小売セグメントの営業利益は32%減の12億円、

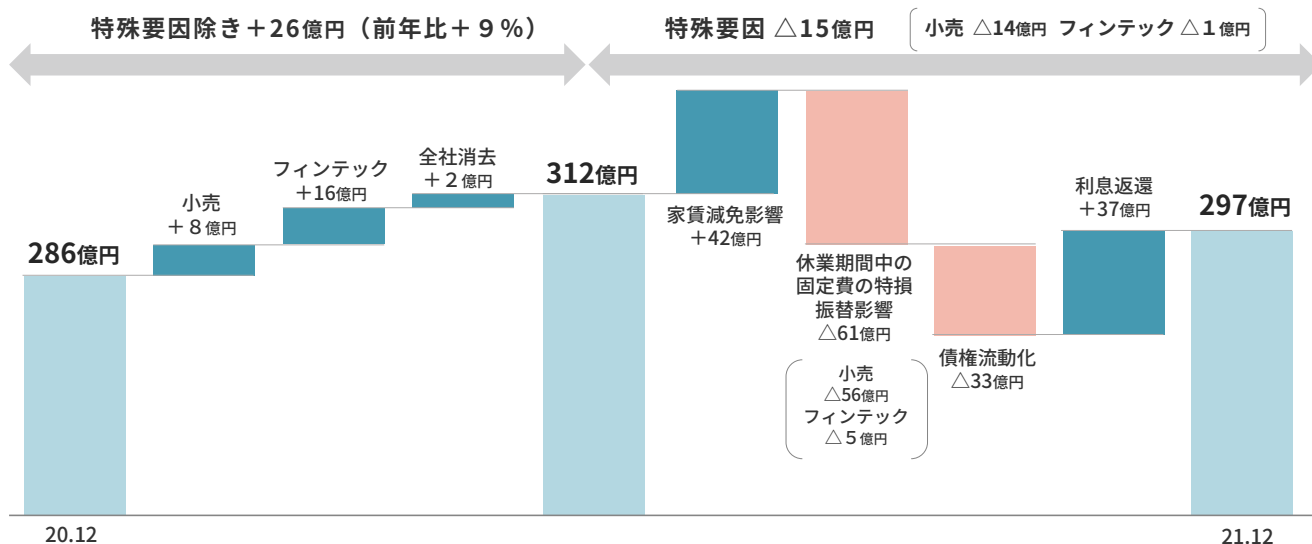
フィンテックセグメントの営業利益は5%増の331億円となりました。

詳しい営業利益増減については、後ほどご説明いたします。

以上の結果、連結営業利益は4%増の297億円、2期ぶりの増益となりました。

## 営業利益増減の内訳

連結営業利益は特損振替影響を含む特殊要因を除くと、9%増の26億円増益



営業利益増減の内訳についてご説明いたします。

まず、右側の特殊要因をご覧ください。

昨年よりも家賃減免額が減少したことによる収益増が42億円、休業期間中の固定費の特損振替影響が61億円の営業減益要因となっています。

これに流動化償却影響、昨年発生した利息返還引当金の影響を合わせると、特殊要因はあわせてマイナス15億円となります。

これらの特殊要因を除いた、営業利益の実質的な増益は、プラス26億円、前期比プラス9%となりました。

セグメント別の内訳といたしましては、小売は、昨年より営業日数が増加したことによる増収効果などで、8億円の増益となりました。

フィンテックは、カードクレジットの取扱高拡大にともなう手数料収入などの増加により、16億円の増益となりました。

## 22年3月期 第3四半期決算概要および各事業の状況

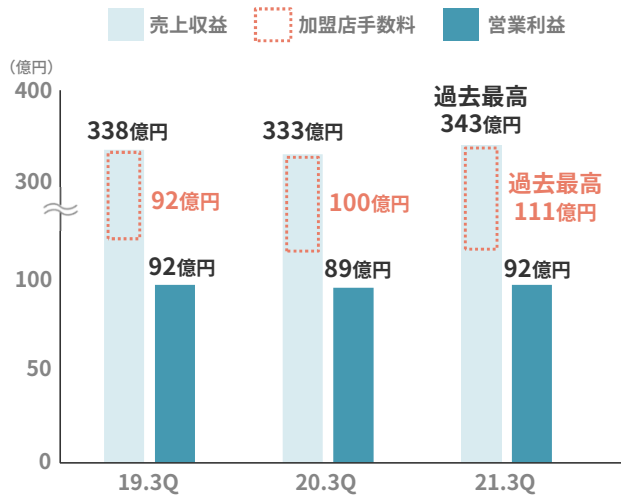
- ・ 連結
- ・ フィンテック
- ・ 小売
- ・ 共創投資
- ・ B S / キャッシュフロー
- ・ E S G

通期見通し

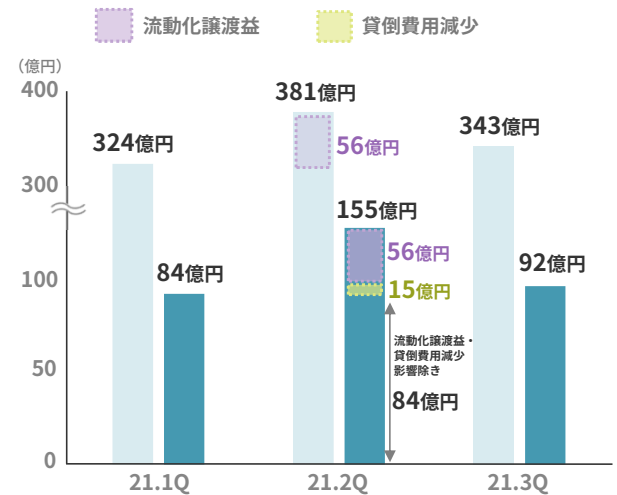
# フィンテック：売上収益・営業利益の推移

## 第3四半期での売上収益では当期が過去最高

■ 直近3年 第3四半期実績推移



■ 22年3月期 四半期別推移



左のグラフは直近3か年の第3四半期3か月の売上収益と営業利益です。

今期、加盟店手数料が四半期別で過去最高となったことで、売上収益も第3四半期で過去最高の343億円となりました。

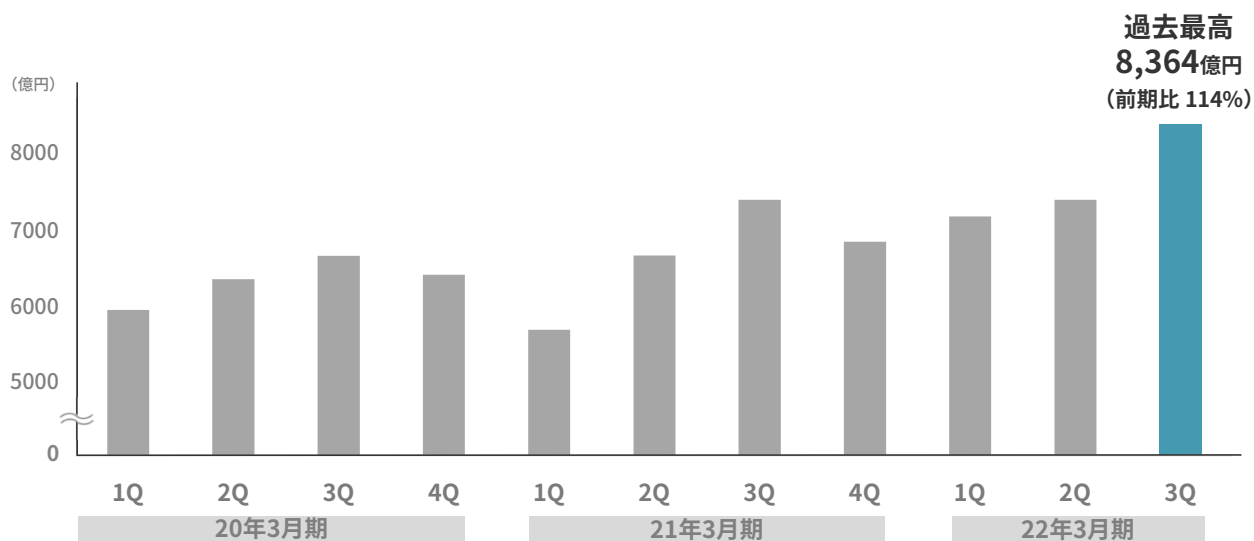
次に、右のグラフは、今期の四半期別推移となります。第3四半期3か月の営業利益は92億円となりました。

今期については第2四半期3か月の数値が突出して高く見えますが、これは流動化譲渡益と貸倒費用の減少といった特殊要因があったためで、それらを除いた営業利益は84億円で第1四半期とほぼ同等、それに対して第3四半期は1割程度実質的に増益したことになります。



## カードクレジット取扱高

四半期単位（3ヵ月）での取扱高は、当第3四半期が過去最高

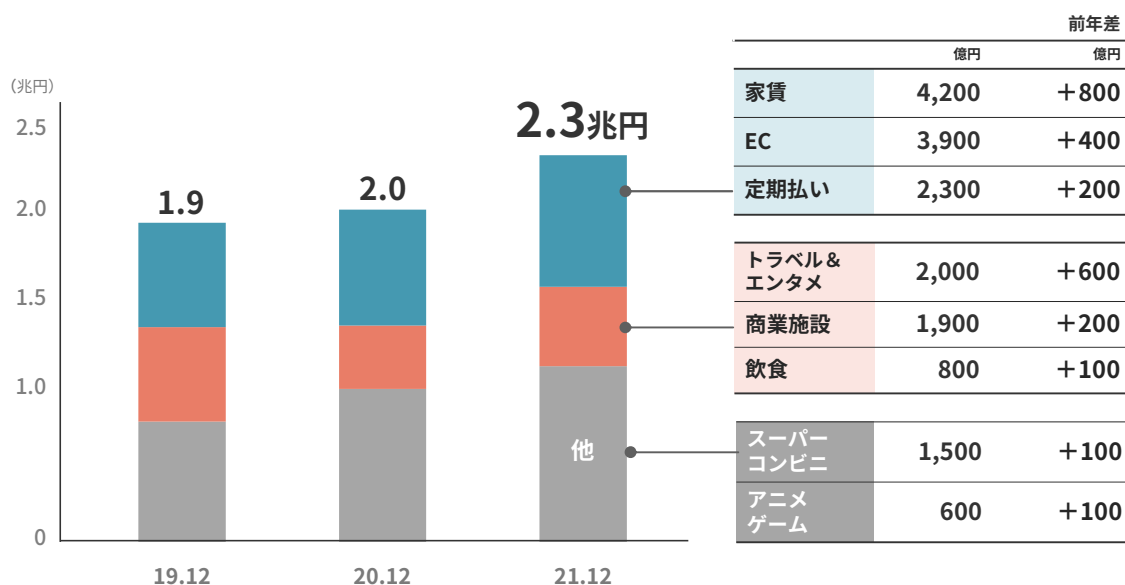


20年3月期からのカードクレジットの四半期別推移となります。

前期は新型コロナウイルスの感染拡大にともない、第1四半期に一時的な落ち込みがありました。その後は順調に回復し、今期の第3四半期は過去最高の8,364億円となりました。

## カードクレジット取扱高

家計シェア最大化の推進が功を奏し、取扱高は過去最高となる2.3兆円

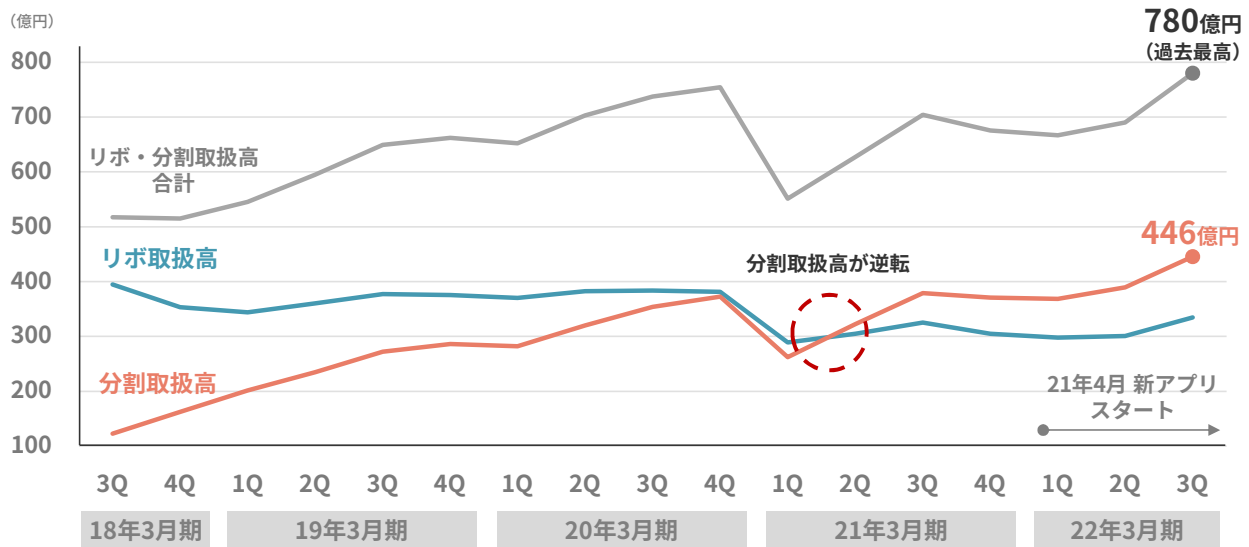


先ほど四半期別の取扱高をご説明しましたが、第3四半期累計のカードクレジット取扱高につきましても、過去最高の2.3兆円となりました。

第2四半期に引き続き、家賃払いやEコマース、定期払いが好調に推移したことに加え、スーパー、コンビニといった前期に伸長したカテゴリーが今期もさらに取扱高を伸ばしました。また、前期に苦戦したトラベル&エンターテインメントや商業施設、飲食等も前年の実績を上回り、回復が進んでおります。

## リボ・分割取扱高の推移

昨年度にリボ取扱高を上回った分割取扱高がさらに伸長し、第3四半期のリボ・分割取扱高は過去最高に



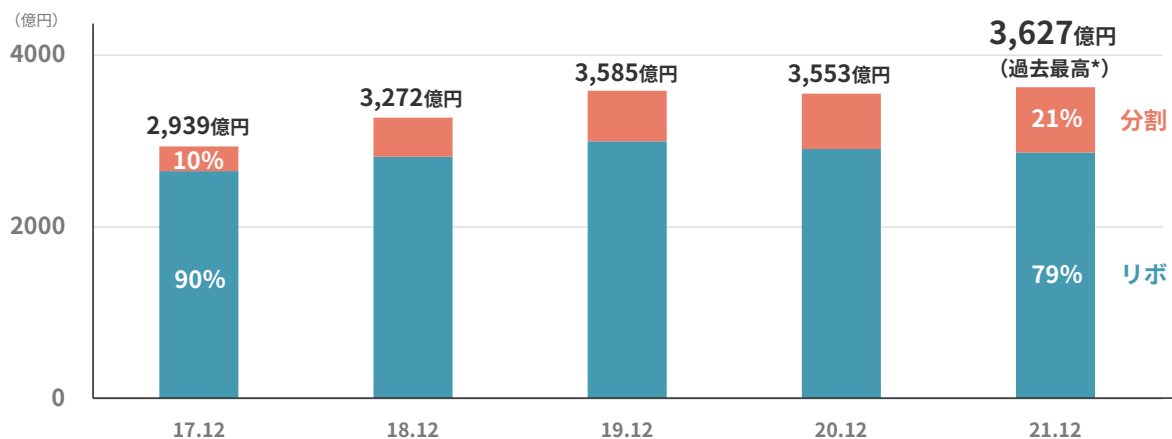
昨年度に分割の取扱高はリボの取扱高を初めて上回りましたが、今年度4月に本格稼働した新アプリの影響もあり、分割取扱高がさらに伸長しております。

その結果、第3四半期のリボ・分割の合計取扱高は780億円と、過去最高の取扱高となりました。

## リボ・分割残高の推移

リボ・分割取扱高の構成変化にともない、分割残高の構成は21%まで拡大し、残高は過去最高\*

### ■ リボ・分割残高推移（流動化債権を含む）



\*エボスカード発行以来

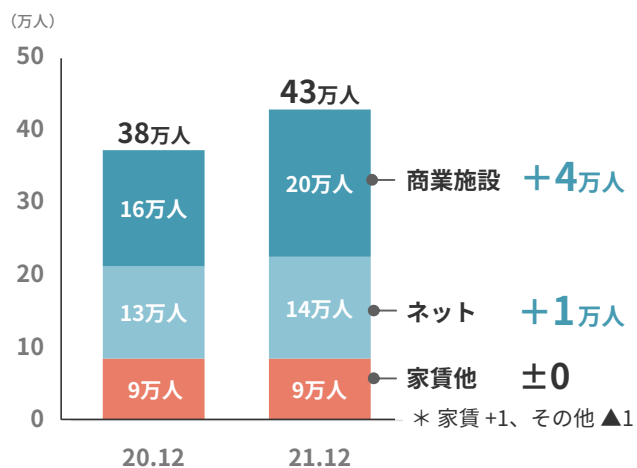
これにより、流動化債権を含むリボ・分割債権残高に占める分割払いの構成は21%まで拡大いたしました。

また、リボ・分割残高は3,627億円、前期比102%と、第2四半期に引き続き前年を上回る水準となりました。

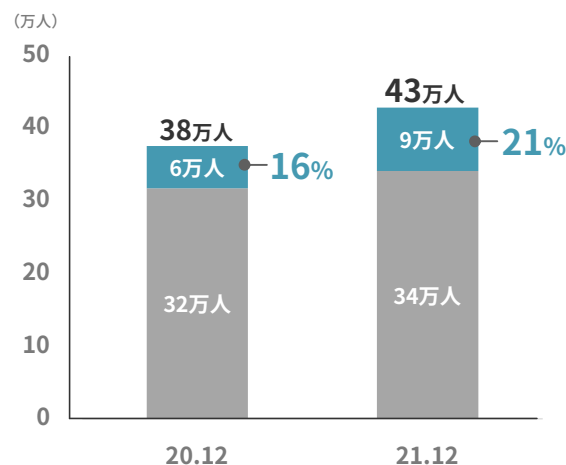
## 新規入会の状況

商業施設での入会が回復し前年から5万人増、また「『好き』を応援するカード」の構成が増加

■入会経路別構成



■「『好き』を応援するカード」構成

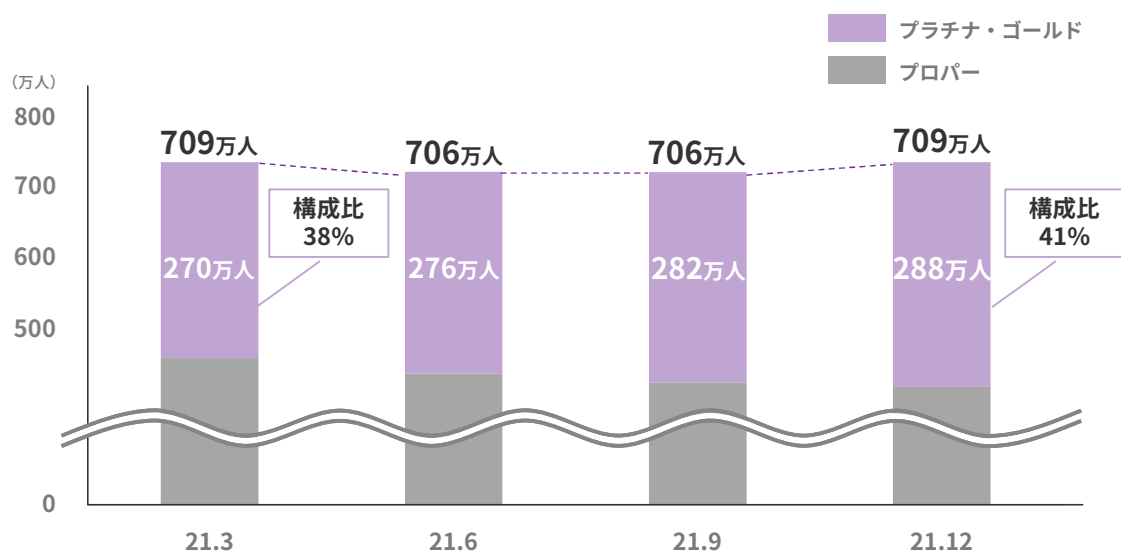


昨年大きく落ち込んだ商業施設での入会が増加したことや、ネットからの入会の回復により、前年に対して5万人増の43万人となりました。

また、中期経営計画の注力分野であるコンテンツカードをはじめとする、「『好き』を応援するカード」の構成は21%まで拡大しております。

## カード会員数の推移

カード会員数は709万人、プラチナ・ゴールドの構成は41%に拡大

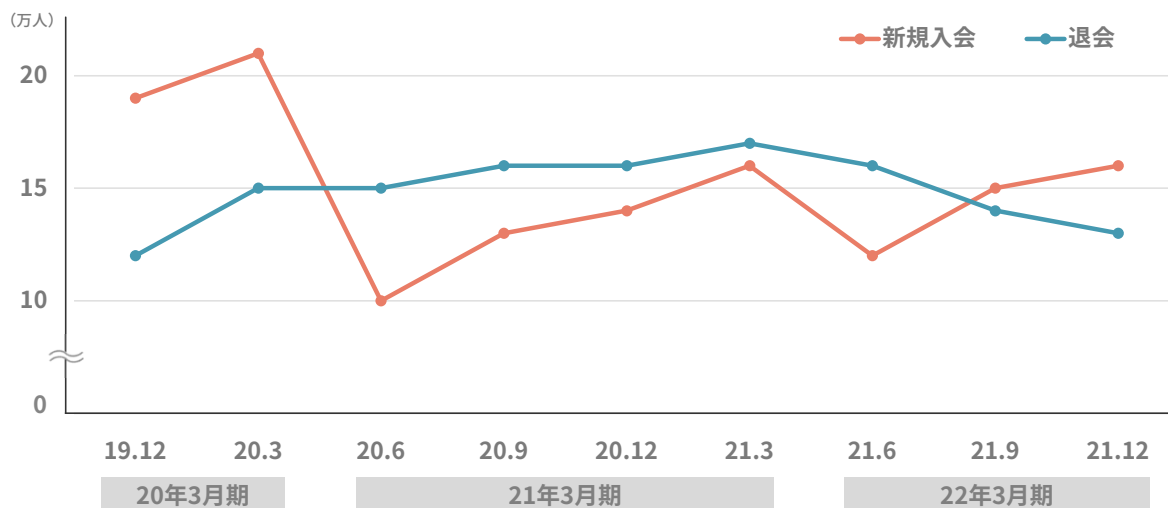


6月末に会員数が706万人に減少し、9月末も横ばいが続きご心配をおかけしておりましたが、12月末のカード会員数は増加に転じ、9月末に対して3万人増の709万人となりました。

独自の取り組みであるプラチナ・ゴールド会員は12月末で288万人、総会員数における構成比は41%となり、メインカード化が着実に進んでおります。

## 新規入会・退会者数の推移

第2四半期に入退会者数が逆転し、今期は入会者数が退会者数を上回る



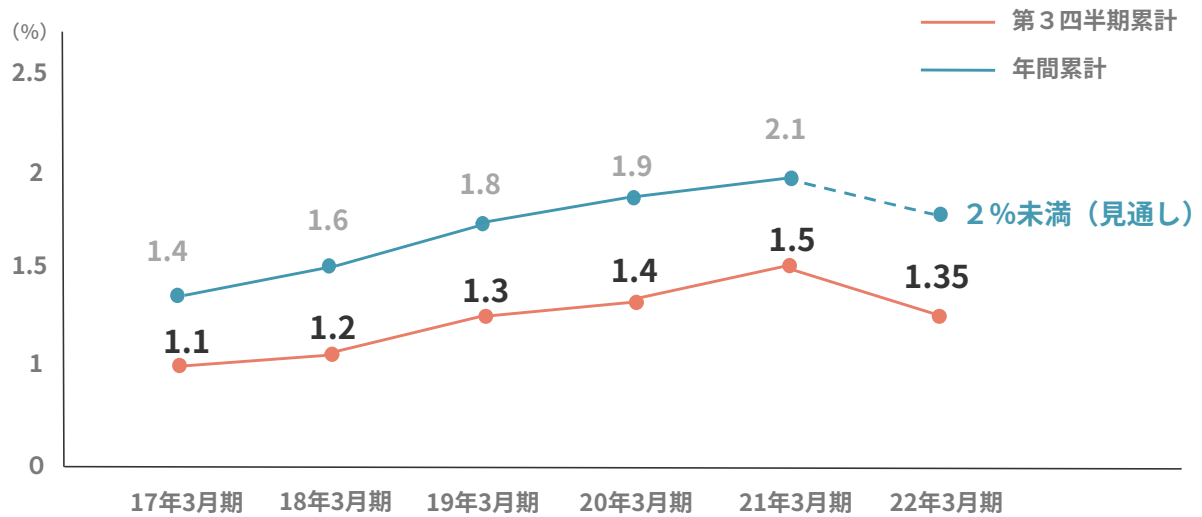
前の頁でカード会員数が増加に転じたのご説明しましたが、その理由が、こちらにお示した新規入会数と退会者数の逆転です。

21年3月期は、3回目の期限更新のタイミングであったことなどにより、退会者数の水準が一時的に高まり、入会者数を上回る現象が起こっておりました。

退会者数の増加は今年度に入ってから減少に転じる一方、入会者数が回復してきた結果、第2四半期には入会者数と退会者数が逆転いたしました。

## 貸倒率の推移

前期まで増加していた貸倒率は1.35%となり、当期は減少の見込み



\*貸倒率 = 貸倒償却額 / 期末営業債権残高 (流動化債権含む)

第3四半期累計の貸倒率は1.35%となり、前期までの上昇傾向から減少傾向に転じております。また、年間累計で前期は営業債権が減少したこともあり2%を超えましたが、今期は再び2%を下回る見通しです。



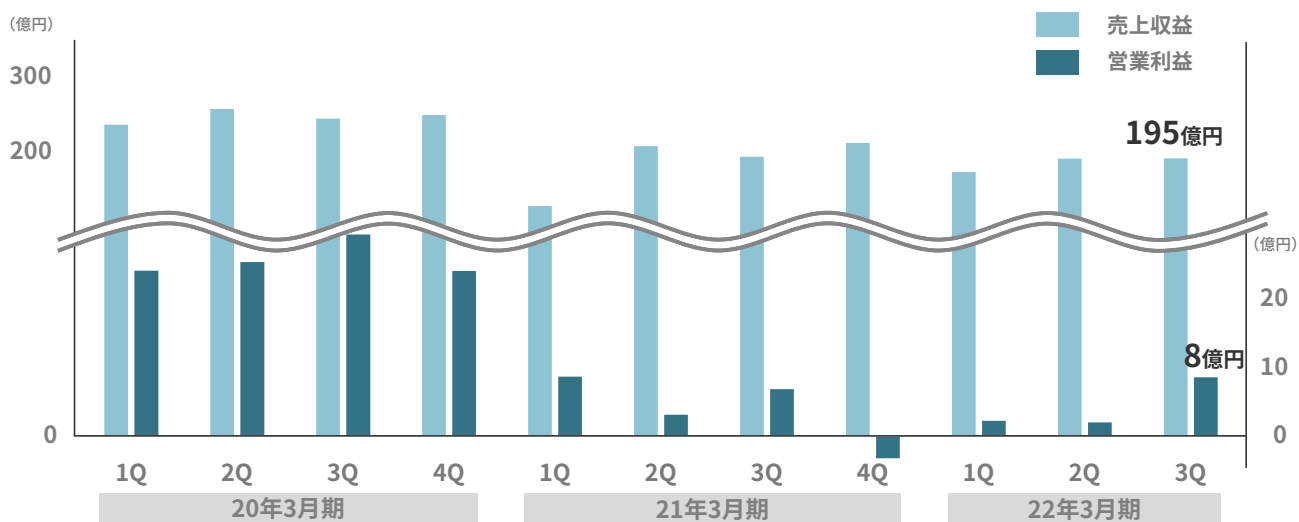
## 22年3月期 第3四半期決算概要および各事業の状況

- ・ 連結
- ・ フィンテック
- ・ 小売
- ・ 共創投資
- ・ B S / キャッシュフロー
- ・ E S G

通期見通し

## 小売：売上収益・営業利益の推移

第3四半期（3ヵ月）の売上収益は195億円、営業利益は8億円

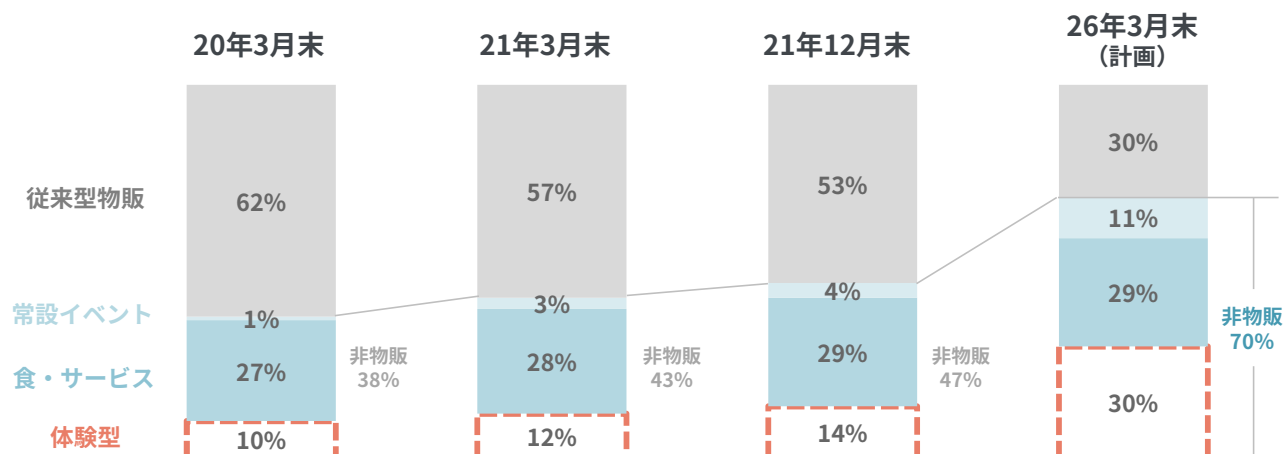


第3四半期3ヵ月の売上収益は第2四半期と同水準の195億円となりましたが、営業利益は8億円、前期差プラス2億円となり、昨年度第1四半期の水準まで回復してまいりました。

## 売らない店の進捗

12月末時点の非物販テナントの面積構成は47%（+4%）、体験型が14%となりカテゴリー転換が進む

### ■カテゴリー構成の推移

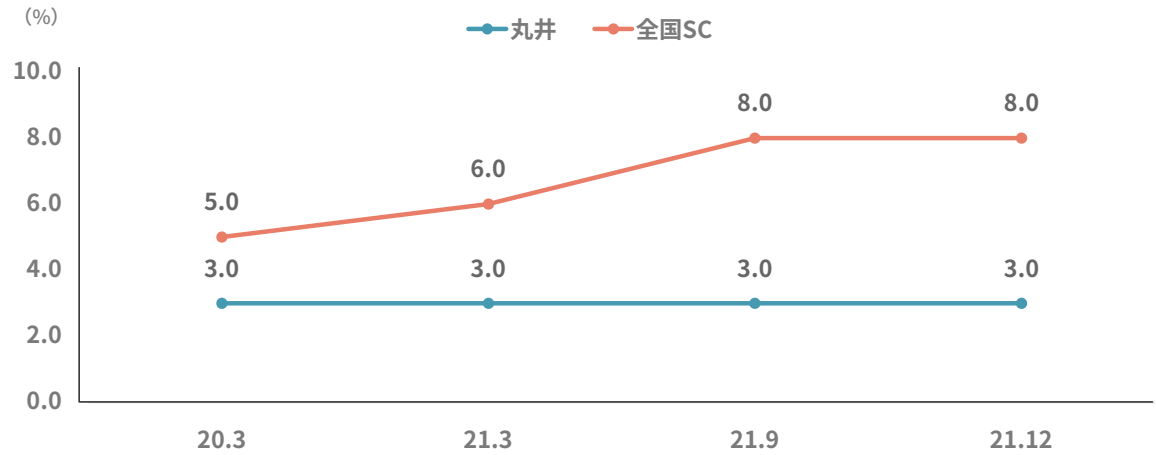


体験型テナントなどの非物販テナントの構成は、共創投資先さまのご出店などもあり、前期末に対し4%増の47%となり、着実にカテゴリー転換が進んでおります。

26年3月期目標の70%に向けて、これからも体験型テナントや食・サービス、イベント等の拡充を進めてまいります。

## 空室率の推移

空室率はコロナ禍においても3%台を維持



\* 空室率：売場面積のうち閉鎖区画面積の割合  
\* 全国SCはSCデータベース等より当社推計

このような「売らない店」に向けたカテゴリー転換の取り組みもあり、閉鎖区画の割合を示す「空室率」は全国商業施設が8%台である一方で、当社はコロナ禍においても3%台を維持しております。

## 22年3月期 第3四半期決算概要および各事業の状況

- ・ 連結
- ・ フィンテック
- ・ 小売
- ・ 共創投資
- ・ B S / キャッシュフロー
- ・ E S G

通期見通し

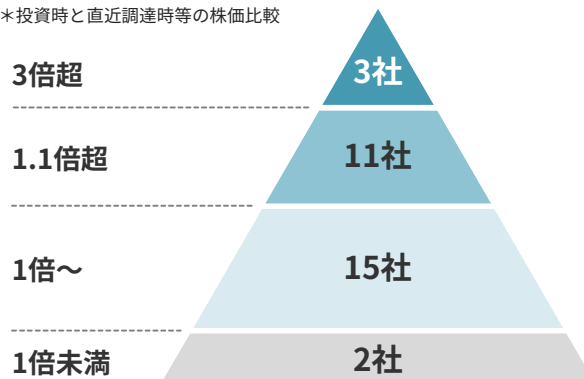
## ■ スタートアップ投資の状況

	社数	投資額
21年度累計	4社	7億円 (19億円)*
累計	31社	134億円 (207億円)*

\*ファンド出資を含む投資額

## ■ 投資先31社の状況

\*投資時と直近調達時等の株価比較



ハードルレート **IRR 10%** < **IRR 26%**

\*IRR：保有する有価証券の内、非上場株は直近調達時価格、上場株は21年12月末時点の株価で会計期末に売却と仮定し算出

第3四半期累計では、4社のスタートアップに7億円の投資を行い、スタートアップ投資の累計は31社、134億円となりました。

投資の規律として目安にしているIRRは26%と、引き続きハードルレートの10%を上回っております。

## 22年3月期 第3四半期決算概要および各事業の状況

- ・ 連結
- ・ フィンテック
- ・ 小売
- ・ 共創投資
- ・ B S / キャッシュフロー
- ・ E S G

通期見通し

## バランスシートの状況

総資産は9,336億円となり323億円増加、営業債権は5,863億円で416億円増加

	21年3月末	21年12月末	増減
	億円	億円	億円
営業債権	5,447	5,863	+416
（債権流動化額：外書）	(1,822)	(2,020)	(+198)
[流動化比率（%）＊1]	[25.1]	[25.6]	[+0.5]
割賦売掛金	4,267	4,727	+460
営業貸付金	1,180	1,137	△44
固定資産	2,775	2,745	△31
投資有価証券	421	389	△32
有利子負債	4,846	5,272	+427
[営業債権比（%）＊2]	[89.0]	[89.9]	[+0.9]
自己資本	2,896	2,690	△206
[自己資本比率（%）]	[32.1]	[28.8]	[△3.3]
総資産	9,012	9,336	+323

＊1 流動化比率 = 債権流動化額 / (営業債権 + 債権流動化額)    ＊2 営業債権比 = 有利子負債 / 営業債権

営業債権はカードクレジット取扱高の増加にともない前期末より416億円増加し、それにともない有利子負債も427億円増加しました。流動化比率は、12月末現在は25.6%となっております。

営業債権に対する有利子負債の比率は、89.9%、自己資本比率は、28.8%となっており、いずれも目安となる水準になっています。

資本最適化に向けた自社株取得は、第3四半期末時点で219億円、1,035万株分を実施し、期末までに実施予定の300億円に対する進捗率は73%となりました。

また、11月30日付で、取得した自己株式の消却を実施し、消却前の発行済株式総数の6.7%にあたる、1,500万株の消却を完了いたしました。



## キャッシュ・フローの状況

### 基礎営業キャッシュ・フローは前年から146億円増加

	21年3月期 第3四半期	22年3月期 第3四半期	前年差
	億円	億円	億円
営業キャッシュ・フロー	198	48	△150
営業債権等の増減（△は増加）	49	△247	△296
<b>基礎営業キャッシュ・フロー *</b>	<b>149</b>	<b>295</b>	<b>+146</b>
投資キャッシュ・フロー	△150	△109	+41
固定資産（有形・無形）の取得	△88	△71	+17
投資有価証券の取得	△45	△29	+16
保証金返還他	△17	△9	+8
財務キャッシュ・フロー	△59	59	+118
有利子負債の増減	43	427	+384
配当金の支払	△101	△110	△9
自己株式の取得他	△1	△257	△256
現金及び現金同等物の期末残高	397	410	+12

\* 基礎営業キャッシュ・フロー = 営業キャッシュ・フロー - 営業債権等の増減

営業キャッシュ・フローから営業債権等の増減を除いた基礎営業キャッシュ・フローは、税前利益の増加などにより、前期差146億円増の295億円となりました。

また、投資キャッシュ・フローは、スタートアップ投資や固定資産の取得などにより、109億円のキャッシュアウトとなっております。

## 22年3月期 第3四半期決算概要および各事業の状況

- ・ 連結
- ・ フィンテック
- ・ 小売
- ・ 共創投資
- ・ B S / キャッシュフロー
- ・ E S G

通期見通し

### D J S I World Index構成銘柄に4年連続で選定

#### ■おもな外部評価

- 2021年11月 D J S I World Index構成銘柄に4年連続で選定
- 2021年11月 D J S I Asia Pacific Index構成銘柄に5年連続で選定

Member of

**Dow Jones  
Sustainability Indices**

Powered by the S&P Global CSA

※その他受賞の内容はホームページでご覧いただけます

<https://www.0101maruigroup.co.jp/ci/award/index.html>

当社は、世界的な社会的責任投資株式指数である

「Dow Jones Sustainability World Index (DJSI World)」の構成銘柄に4年連続で選定されており、あわせて、アジアパシフィック地域にて構成される

「Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index (DJSI Asia Pacific)」の構成銘柄にも5年連続で選定されました。

これは当社グループが、環境への配慮、社会的課題の解決、ガバナンスへの取り組みとビジネスが一体となった、未来志向の「共創サステナビリティ経営」を進めている点を評価していただいたと考えております。

今後も、サステナビリティ経営のフロントランナーになるべく、ビジネスを通じて持続的な社会、地球環境を実現し、すべての人が取り残されることなく「しあわせ」を感じられる、インクルーシブで豊かな社会をめざし、ステークホルダーの皆さまと共創サステナビリティ経営に積極的に取り組んでまいります。

## 22年3月期 第3四半期決算概要および各事業の状況

- ・ 連結
- ・ フィンテック
- ・ 小売
- ・ 共創投資
- ・ B S / キャッシュフロー
- ・ E S G

### 通期見通し

## 当初計画どおりの営業利益365億円、当期利益165億円を見込む

	21年3月期	22年3月期	前年比	前年差	前々年差
EPS (円)	10.6	79.6	752	+69.0	△37.4
ROE (%)	0.8	5.9	—	+5.1	△2.9
ROIC (%)	1.4	3.2	—	+1.8	△0.5
< 参考 >					
	兆 億円	兆 億円	%	億円	億円
グループ総取扱高	2 9,192	3 4,100	117	+4,908	+5,063
売上収益	2,062	2,120	103	+58	△197
売上総利益	1,773	1,850	104	+77	△94
販管費	1,621	1,485	92	△136	△42
営業利益	152	365	240	+213	△53
当期利益	23	165	728	+142	△88

\* 企業会計基準第29号（収益認識に関する会計基準）適用後の値を記載しております。

28

公表年間計画に対する第3四半期実績の進捗率は営業利益81%、経常利益84%、当期利益98%となっております。

特に当期利益の進捗率は高くなっておりますが、年明け以降新型コロナウイルス感染症が急拡大を続けており、緊急事態宣言の発出が検討されるなど外部環境が不透明なことに加え、保有株式の評価損等のリスクも考慮して通期計画は据え置いております。


決算概要につきましては以上です。

ご清聴ありがとうございました。

<参考> 2022年3月期 セグメント別利益見通し

	21年3月期	22年3月期	前年比	前年差
	億円	億円	%	億円
小売	15	20	135	+5
フィンテック	202	410	203	+208
全社・消去	△65	△65	—	0
連結営業利益	152	365	240	+213

*前提条件	第3四半期累計（実績）		通期	
	前年比	前々年比	前年比	前々年比
小売取扱高	109%	73%	109%	78%
フィンテック取扱高	116%	119%	117%	121%



本資料に掲載しております将来の予測に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。お問い合わせは、I R部 03-5343-0075にご連絡ください。

OIOI  
MARUI GROUP